



育児セラピスト全国大会 in 2010

～ 100 人のベビーマッサージインストラクターが考える 10 年後の子育て環境 ～

● 報告書

後援：淑徳短期大学

主催：一般社団法人日本アタッチメント育児協会

Report

育児セラピスト全国大会

「10年後の子育て環境を考える」

Symposium

後援：淑徳短期大学

主催：一般社団法人日本アタッチメント育児協会

2010年12月4日・5日に、育児セラピスト全国大会が行なわれました。

当協会にとっても、そして私達、協会スタッフにとっても、初めてのイベント開催でした。

結論から言えば、想像していたイメージの100倍良いイベントでした。

会場は、今回の「育児セラピスト全国大会」の後援をいただいた淑徳短期大学さんです。とてもキレイで上品な大講堂をお借りしてのシンポジウムでした。

全く手探りでしたが、事務局長様をはじめ、淑徳短期大学さんに、何から何までお世話になって、ようやく開催にこぎつけました。

淑徳短期大学の事務局長様をはじめ、関係者の皆様には、この場を借りて、深くお礼申し上げます。



さて、今回の第一回育児セラピスト全国大会ですが、主催者側が、こんなことを言ってしまうと手前味噌のようですが、参加者の方々の意識の高さ、知的好奇心の高さ、真剣さ、想いの熱さが、私の想像をはるかに上回るものだった結果、イベント自体が想像の100倍良いものになった、というのが正直な感想です。

すべてを伝えきることはできませんが、私なりに、イベントを振り返り、まとめてみました。当日の臨場感や熱気までお伝えできないのが残念ですが、ここに報告させていただきます。

一般社団法人日本アタッチメント育児協会

理事長 廣島 大三

01：寺下謙三先生基調講演

基調講演の寺下謙三先生（心療内科医、寺下医学事務所代表）には「子育ては、最大の社会貢献である」と題してご講演頂きました。

認知心理学やスキーマ理論の中で、子育ての解釈における乳幼児のスキーマ形成期の重要性和子どもの脳を混乱させないスキーマ形成の話は、大変示唆に富み、印象深く聞き入りました。

「父親は強きもの、母親はやさしきもの、夫婦は仲良きもの」これが、子どもにとって自然なスキーマである、というのは、非常に納得できるお話でした。



02：「ABM アタッチメントベビーマッサージ」出版記念対談

その後、「ABM アタッチメントベビーマッサージ」（寺下謙三先生 監修 ・ 廣島大三著）の出版記念対談をしました。

その中で、先生との出会いから、この本の刊行に至るまでのご縁などを、対談で振り返りました。対談のポイントは、ベビーマッサージという日常のちょっとした営みが、子どもの安定したスキーマ形成を助け、また、親のスキーマの安定化にもつながる。そのような意味で、「ベビーマッサージは心を救う」という結論を導きました。



ABM アタッチメント ベビーマッサージ

寺下 謙三（監修）
廣島 大三（著）
価格：¥ 1,260



03：パネルディスカッション 「10年後の子育て環境のために、いまできること」

ここでは、シークレットゲストとして、なんとタレントの清水国明さんにお越しいただきました。国明さんとは、知人を介して知り合わせていただき、奥様は、じつは育児セラピストトレーナーでもあるんです。そんなご縁もあり、また、いま国明さんは「多毛作倶楽部」という活動をしていて、一年のうち182日を仲間と共に遊んで過ごす「一人十色の人生」！というのをコンセプトに、この活動を全国展開しています。そのPRも兼ねて、ご出演頂きました。



パネルディスカッションでは、寺下先生からは、心療内科医のお立場から問題提起を頂き、また貴重なご意見を頂戴しました。テーマは、やはり、心に問題を抱える患者さんは、多くの場合に幼少期の親子関係のズレを根底に抱えており、そのズレをいかにして修復するかということが課題であるとのことでした。

国明さんは、ご存知のとおりアウトドアの達人でして、さらに子育てに関しては、現在3歳になったばかりのお子さんの子育て真っ最中の現役パパでもあります。そんな立場からご意見を頂きました。子どもが一芸に秀でるためには、その前段階で、いろんな経験をしなければいけない。自然というのは、そうしたいろんな経験の宝庫で、子どもにとって必要な学びをすべて経験させてくれる、とおっしゃっていたのが印象的でした。

続く淑徳短期大学 准教授の細井 香さんのお話からは、同大学で保育士養成を行なっている立場から、いま保育士になろうとする学生にとって必要なことや、10年後の彼女たちが、保育士として活躍しているために必要なものについて考える機会を頂きました。



そして、一般財団法人日本キッズコーチング協会代表理事の竹内エリカさんは、子ども達の表現力が乏しくなっていること、そして、元気がなくなっていることを問題点として指摘していらっしゃいました。

子どもが自由に表現力や想像力を発揮できれば、もっとももっと元気になる。そんな機会を増やせば、10年後の子育て環境は、とっても楽しみになるはず、とおっしゃっていました。

乳児院しらゆりベビーホーム施設長の島田 恭子さんは、児童福祉の立場から、虐待が親子間で連鎖的に起こっている現実を問題提起していただきました。

それに対して、アタッチメントの観点から、虐待をとがめるのではなく、そうしてしまう親を認めてあげて、そのまま受け入れてあげることで、「虐待の親子間連鎖」を「アタッチメントの親子間連鎖」に変えようではありませんか！という頼もしいお言葉で締めて頂きました。





最後に、ホリスティックケアサロン リエゾン代表の大塚一恵さんは、お母さんの心が疲れすぎていて、子育てどころではない、子どもに愛着を与える余裕がない、そんな理不尽さに打ちのめされそうな現実についてお話頂きました。そういう状況だからこそ、理想を語りあい、キラキラ光る子育ての未来を信じあえる仲間の大切さを語っていただきました。

このパネルディスカッションを通して、10年後の子育て環境に対して、大きく3つの軸が出てきました。

1. 教育 ・ 2. 癒し ・ 3. 環境

教育では、子どもの教育と共に、親教育も含めてそれぞれ重要になってきそうです。子どもが学ぶためには、親が子どものことを、子育てを学ぶことは、避けて通れないことではないでしょうか。

癒しというのは、親が子育てをする上で、もっともっと癒される必要があるという意味です。癒されるというのは、アタッチメント的に言えば、認められること。大好きだよと言ってもらうこと。心配ないよと導いてもらうこと。私だって同じだよ、と共感してもらうこと。そんな癒しの輪を広げることが必要不可欠でしょう。

最後に**環境**です。これは、私の主観も入りますが、上記の教育や癒しを親に与えて上げられる「育児の専門家」が、どの地域に行っても、身近なところにいて、見守ってくれる環境です。

それらがあれば、10年後の子育て環境は、とても明るく輝いていて、そこで育つ子ども達は元気いっぱい、想像力にあふれ、知的好奇心に満ちて、目的に突き進むことでしょう。

そんな10年後を、われわれは描き、明確にイメージしたパネルディスカッションでした。

04：育児セラピストの優秀実践者表彰 & 実践報告会 ベビーマッサージが広げるアタッチメントの輪

育児セラピストの優秀実践者表彰では、現在、職場や自宅サロンなどで、資格を活かして活躍されている方のご紹介を兼ねて、表彰式を行いました。

古橋明代さんは、保育士をしながら、自宅の一部を改装して、ベビーマッサージサロン「絆」を立ち上げた方です。最初は、公民館や文化教室でベビーマッサージを教えていましたが、そのうちお母さん方の「もっと！もっと」に答える形で、サロンまで作ってしまったバイタリティ溢れる方です。



古橋 明代さん

沖村暁美さんは、おのみち子育て支援センターの所長さんで、1階が保育園、2階が子育て支援、4階がフリースクールという市の複合施設を運営されています。その中で、ベビーマッサージ教室を行ったり、絵本の読み聞かせや子育て相談などを展開して、地域の子育てママのサポートを行なっている方です。彼女は、保育園の園長先生で定年退職され、退職後に現職に就かれ、アクティブに活動されています。ここでは、フリースクールに通う高校生たちが、子ども達と交流し、子ども達は、お兄ちゃんやお姉ちゃんたちに遊んでもらい、不登校の高校生たちは、子ども達にあこがられることで、自信を取り戻す、そんな取組みをされています。



沖村 暁美さん

鈴木悦子さんは、川口市医療センターの新生児集中治療室（NICU）に勤務する看護師長さんで、低出生体重児とそのお母さんとベビーマッサージに取り組んだ二症例について発表いただきました。赤ちゃんにおいては、乾燥肌の改善や手足の冷えが軽減されたり、また母親を見て反応するようになる、といった状況が見られました。さらに、注目すべきは、お母さんの変化でした。NICUでの処置が必要なケースでは、母親は、出産後すぐに赤ちゃんを引き離されてしまうので、赤ちゃんを産んだことの実感や赤ちゃんへの興味関心が生まれにくく、母親が赤ちゃんに対して消極的な傾向があります。



鈴木 悦子さん

今回の2例においても、そうでした。しかし、ベビーマッサージに取り組むことで、スタッフとの会話が増え、笑顔が増え、赤ちゃんへの声かけが多くなり、赤ちゃんへの関わりが積極的になったとのことでした。

こうした、ベビーマッサージの可能性は、NICUにいる赤ちゃんのお母さんにとって非常に重要であると、鈴木さんは位置づけており、お母さんに対して手作りの「ベビーマッサージ認定証」を渡し、お母さんを評価してあげることを行っているそうです。これは、非常に重要な要素であり、ABMベビーマッサージでも、標準的な取組みとして、お母さんへの認定証の導入を検討したいと思いました。

伊藤有紀さんは同じ資格を取ったママ友と一緒に、現役子育てママとして、ベビーマッサージ教室「レインボー・ベイビーズ アンド キッズ」を運営しており、実際の教室運営に関して、カリキュラムから料金、参加者のフォローなど、実践的なノウハウを公開していただき、他の参加者の関心を集める発表でした。



伊藤 有紀さん

こうして、基調講演、パネルディスカッション、そして優秀実践者発表会それぞれにおける熱いトークを通して、「10年後の子育て環境と、いまできること」というテーマが見えてきたところで、今回のシンポジウムは、幕を閉じました。



かつて 30 年、保育の現場で働いてきた者なのですが、今や、ADHD 等発達障害（軽度も含め）の子どもさんがとても多くなっています。”発達”について知的面、心理面の他、運動面をもじっくり学ぶことの必要性を痛感させられました。早すぎることなく!適切な時期に適切な刺激を!!大切さをより多くの人々（母親にはもちろんのこと）について知ってもらいたい（もちろん、私を含め）と感じています。子どもたちの幸せのため、ひいては世の幸福、発展のために…。人を育てることは本当にすばらしい仕事だと思います。

【福岡県 子育て支援（広場型）チャイルドスタッフ 53 歳】

新しいことを発見したような、とても輝いた日になりました。さらに自分の年齢に関係なく、余力があるうちにこのような機会があればどんどん積極的に参加していきたいです。充実した二日間になり、自分の仕事に自信になりました。ありがとうございました。

【北海道 保育師 59 歳】

本当に楽しみにしてきました。より深いところを知れて、親子で楽しめることがたくさんありました。本当に受けてよかったです。自分のスキルアップのためにもこういう機会を増していけたらと思っています。ありがとうございました。【長崎県】

たくさんの方々との意見・情報交換ができてよかったです。今後も保育園でいろいろと取り入れていきたいと思っています。ありがとうございました。

【和歌山県 保育師 37 歳】

日ごと、「もっと勉強をしなくては…」と思っていた内容のお話が聞けたので、理論と結びついて納得できました。心と体と知能の発達を抑えているので支援にとっても役立ちます。皆さんのお顔が見れたので力強く感じました。よい機会を作っていただきました。

【埼玉県 52 歳】

お疲れ様でした。主催側は色々大変だった事と思います。この度私共親子で講座及び大会に参加する事ができました事に変えて大変喜んでいますが、素晴らしい先生達に会え講義を受けた事は私の人生にとりまして夢のような 2 日間でした。ありがとうございました。

地域で活かせる様に実践・実施させていただきます。今日娘は早速講義を受けた事を実施しておりました我が娘ながらあつぱれ。次回も時間と家族の協力で参加する事が出来る様に日々精進頑張っていきます。また会える日を楽しみにしています。本当にありがとうございました。

【千葉県 30 歳】

全国各地でがんばっている皆様と出会える機会だと思い、刺激をいただきながら交流できたら良いなという思いから参加させていただきました。

沖縄県ではなかなかベビーマッサージの普及に至るのは難しい環境ではあるのですが、まずは私の仲間、周りからできることから 1 歩 1 歩と思っております。

今回も素敵な出会いがありました。ありがとうございました。【沖縄県 学童保育支援員 37 歳】

今回の育児セラピスト全国大会の1日目は、スキルアップ認定講座となっていました。

ここでは、新しい講座として、「**AKM キッズマッサージインストラクター養成講座**」と「**AGM アタッチメントジムインストラクター（アタッチメント体操指導士）**」の2講座を開講しました。



講座の内容は、賞賛に値するものであったと自負しています。これも、手前味噌ということではありません。

といいますのも、今回の講座カリキュラムにおいては、私は、編集長のような立場で、全体の骨格をつくり、各メソッドと心理学の編みこみを行なったに過ぎず、核心の部分は、それぞれの専門分野の講師たちが作ってくれたものだからです。つまり、賞賛に値するのは、講師たちの功績そのものなのです。



01：AKM キッズマッサージインストラクター養成講座

「AKM キッズマッサージ」は、ABM ベビーマッサージの上級編の位置づけとなるメソッドと、ベビーマッサージを卒業した子どもと親が取り組む親子マッサージのメソッドを含んでいます。対象は、ABM ベビーマッサージインストラクター資格を持っている人です。

この講座では、それぞれのマッサージの意味や役割について、東洋、西洋両方の医学的立場や小児保健の観点を交えてお伝えします。具体的には、「つぼ」に由来する症例別マッサージや、一段階上のマッサージ手技、シチュエーション別のマッサージ、さらに、親子や友達同士で取り組むマッサージなどを「AKM キッズマッサージ」として体系化しました。

マッサージ手法は、子どもへのマッサージの観点だけでなく、母子関係や社会性といった幼児期のテーマや課題を支援することをも目指したものにしました。講座では、その方法と教え方についても指南します。

さらに、この講座を習得した ABM ベビーマッサージインストラクターは、「AKM キッズマッサージインストラクター」資格とともに、ABM ベビーマッサージインストラクター資格が「上級インストラクター」に格上げとなり、乳児期から幼児期を通して、一貫してアタッチメントマッサージを伝えるインストラクターとなります。

周りの方から、1 歳からのマッサージはないんですか?と聞かれ、ずっと待っていた今回の講座だったので、すぐに申し込みました。とても充実した 2 日間でした。

これからこの講座で学んだことを活かして、お母さんの子育て不安を少しでも解消させて、楽しく自信を持って子育てができるように、そして子ども達がいつも笑顔でのびのびと成長できるようにお手伝いしたいと思います。

【福岡県 主婦 43 歳】

現在子どもが 1 歳 4 ヶ月なので、ちょうど発達心理学の内容など、とても勉強になりましたし、参考になりました。

もちろん、家に帰ってから、早速キッズマッサージを子どもに実践してみたいと思います。父親の存在というのもすごく勉強になりました。先生のお話は、育児のとても役立つお話をされていたので大満足! もっとお話を聞きたいと思いました。実践インストラクションも早く家に帰ってやってみたい!!

【東京都】

とてもとても楽しく学ばせていただきました。

今後ベビーマッサージ・キッズマッサージ + アタッチメントジム + 知育を含めた教室も始める予定ですので、とても楽しみにますますなりました。

また教室でキッズマッサージのよさも多々伝えて生きたいと思います。

本当にありがとうございました。

【東京都 自営業 37 歳】

02：AGM アタッチメントジムインストラクター養成講座

「AGM アタッチメント・ジム」は、運動科学におけるキッズ体操と心理学におけるアタッチメント理論を結び付けて、体系化したものです。具体的には、親子が、協調して体を動かすことにより、アタッチメントを育む体操（ジмнаスティクス）です。

0～1歳、1～3歳、3～6歳の3STEPに分けて、子どもの運動発達に必要な7つの基本動作「7 BASICS」を3つのSTEPごとに親子で取り組むことにより、体と心を豊かに育て、認知力、論理構築力、表現力、想像力、コミュニケーション力、共感力を養います。そして、これらを養うことにより、子どもにとって、将来必要な「人間力」や「生活力」を育てます。

0歳から、ベビーマッサージやキッズマッサージと並行して取り組むことが出来るようになっていますが、AGM アタッチメント・ジムに最も取り組んでもらいたいのは、3～6歳（プレスクール期）の子どもです。STEP1は、どの年齢の子どもでも取り組めますので、年齢に関係なく順番に取り組み、進み具合に合わせて、また好みに合わせて個々に取り組むことが出来るようになっていきます。

このインストラクター養成講座では、AGM アタッチメント・ジム教室を開講して、お母さんと子どもに、その方法と意義を教えるためのインストラクターとしての知識とスキルを学びます。

ベビーマッサージ教室に来るお母さんたちの多くは、ベビーマッサージを学び終わると、次の何かを学びたいという知的好奇心に満ちています。また、お母さんたちが、教室に通う目的の最も大きな動機は、教室が、お母さん同士が集まる場として機能していることです。お母さんたちは、育児のことや子どものことなどを話したり、頼りになる先生に相談したりして、つながることを求めています。また、それによって、育児の不安が解消され、育児ストレスを軽減することにつながります。

そのような背景を反映して、「AGM アタッチメント・ジム」では、子どもの発達を、心理学と運動科学の両面から関連付けて学ぶと共に、対人援助法やカウンセリング、発達心理学やアタッチメント理論も学びます。それによって、インストラクターが「お母さんの先生」としての役割を演ずることが出来るための知識とスキルを学びます。

発達段階に応じた心・体・知能の発達のバランス、とてもよく分かりました。多くの子供たちと接する仕事の中で何か変だな…と感じることがありますが、「これかな～」と思いました。個々に合った関わりが大切ですね。

アタッチメントジムでは赤ちゃんから幼児までの遊びの中の工夫がここにあった!と思いました。意味を持ったかかわり方を自信を持ってできるようになりたいです。

運動発達も段階があり、その運動が行えるようになるための手助けの動きがあり…と、その動きが次の何につながり、生活していく中（生きていく中）で必要なものがとても分かりやすかった。

お母さんから、ベビー、幼児、父親へ、お友達へ…と、人との関わりがとても大事であり、その環境をマッサージ（ジム）といったきっかけを通して皆さんに知ってもらいたいと思います。

【神奈川県 30歳】

～育児セラピスト全国大会を終えて～

こんにちは。(社)日本アタッチメント育児協会事務局の加藤です。
シンポジウムではつたないながらも司会を務めさせていただきました。協会発足以来初めてのイベント、私個人的にも初めての司会で当日は緊張してしまい至らない点もあったかと思いますが、皆さまのご協力によって無事に終えることができたことをこの場をお借りして心からお礼申し上げます。また、この全国大会に関わることができ、受講生の皆さまにお会いできたことに心から感謝しています。



シンポジウムでは出演者の皆さまのお話ひとつひとつに心打たれました。特に、優秀実践者の方々のお話ではまさしくテーマ通りの「ベビーマッサージが広げるアタッチメントの輪」を実感し、皆さまの頼もしさに心動かされたことを今も鮮明に思い出します。親子関係の切実な問題に対して、お母さん、赤ちゃんを笑顔にする活動を続けている方がこんなにもたくさんいること、そしてそこに協会の理念が生きていることに感動の気持ちでいっぱいでした。スタッフとして、皆さまの活動のお力になれるようさらに精進する気持ちを再確認した一日でした。

また、普段メール等でやりとりをさせていただいている受講生の皆さまと直接お会いできたことは個人的にとっても嬉しかったです。皆さまにも少しでもスタッフの顔を覚えていただき、時々思い出していただければ幸いです。



2011年の全国大会ではどんな出会いがあるのか考えると、今からとてもワクワクしています。今後は皆さまのご活動をもっと多く紹介させていただきたいと考えていますので、ぜひ事務局にお教え下さい！皆さまのさらなるご活躍を期待いたしております。

事務局としてもアタッチメントの輪を広めるべく、今後も一生懸命進んでまいりますので、よろしくお願いいたします。
本当にありがとうございました。



